

"環境情報工学部"



副学長
環境情報学部長 鬼頭浩文



四日市大学 学報 第72号

環境情報学部の大改革が文部科学省の支援事業として採択されました！

このたび、四日市大学は、令和5年度大学・高専機能強化支援事業に応募し、採択されました。この事業は、デジタル・グリーン等の成長分野をけん引する高度専門人材の育成に向けて、学部の理系転換などを行う大学等に対して国が安定的で機動的かつ継続的な支援を行うものです。今後数年で、施設や備品には10億円以上の助成を受け、自己資金等と合わせて20億円規模の大規模な投資をする計画です。

1997年に設置された環境情報学部ですが、その名称の「環境」は「グリーン」を、「情報」は「デジタル」を意味しており、すでに20年以上にわたってグリーン・デジタル分野の人材を育成してきた実績があります。

本事業をきっかけに、これまで環境情報学部で培ってきた体系的な部分をさらに強化し、より高度な教育・研究ができるよう学部名称に「工」の字を加えた環境情報工学部とする予定です。正式な新学部スタートは2027年度以降ですが、2023年度から高度で先進的なコンテンツを授業や実習に盛り込み、時代を先取りした進歩を継続していきます。

令和5年度選定 支援1 四日市大学



<基本情報>

改組予定年度：令和9年度
改組内容：学部の新設
設置等組織名：環境情報工学部
入学定員：【R9新設】100名
所在地：三重県四日市市

環境と産業の先進都市「四日市」でグリーン・デジタル人材を育成する

「環境・防災先進都市」・「産業・交流拠点都市」を謳う「四日市」で、SDGsや地域循環共生圏の実現を目指すグリーン人材、新世代のデジタルメディアテクノロジーを自由自在に取り扱うデジタル人材、そして環境と情報の両領域にまたがるグリーン・デジタル融合人材を育成する。

理系学生の受け皿と出口戦略

- 理系を志望する生徒の受け皿として
- ✓ 三重県で理系学部（医療系を除く、以下同じ。）を持つ大学は国立大学1校のみ。理系学部を持つ私立大学は県内にない。
 - ✓ 三重県の調査によると、工学分野への進学を希望する学生が多く、**県内の理系学生の受け皿が不可欠**。
 - ✓ 高校生・保護者・学校に対して調査を実施し、具体的な分野を絞る。

産業界・社会が求める人材の育成

- ✓ 「地域人材育成協議会」を充足する。四日市市をはじめとした周辺自治体や地域の経済団体・学校・市民と意見交換を行い、**産業界・社会から求められる人材像を明確にする**。
- ✓ 地域人材育成協議会で見いだされた人材像をもとに、地元企業の成長戦略や地域、各業界の動向を調査し、アドミッション・カリキュラム・ディプロマの3ポリシーを具体化する。
- ✓ 産学官民連携を強化し、企業・大学間での採用・就職情報の共有や、インターンシップの充実をはかる。

入学者選抜・学生支援体制

- 多様な入試と学生支援体制の充実
- ✓ 大学での学修で求められる資質や能力を見極めるため、理系科目重視型の新設など、入学者選抜における受験科目・区分を見直す。
 - ✓ 社会人・留学生・女子学生に加え、大学進学率の低い三重県南勢地域等や離島を対象とした**多様な入試区分と学生支援体制を整備**する。



グリーン・デジタルの融合

- データサイエンスを基盤とした教育
- ✓ グリーン・デジタル両分野のけん引に不可欠な**データサイエンス教育を重視**する。すべての学生にデータサイエンスの基礎を身につけさせる。
 - ✓ 三重県の私立大学では本学が初めての認定となったMDASHを基盤としたデータサイエンス教育を展開する。
- 重視する教育研究分野と体制強化
- ✓ グリーン分野は、SDGsや地域循環共生圏の実現を目指し、自然・産業・生活環境保全に加え、GX・DX、スマートシティに関する教育を強化する。
 - ✓ デジタル分野は、データやAIの活用、情報セキュリティ、XRや新世代メディア技術に関する教育を実施する。
 - ✓ 「高等教育コンソーシアムみえ」などの枠組みを活用し、県内他機関との連携強化をはかる。
 - ✓ 企業・行政経験のある**実務家教員を積極的に登用**し、実践的教育を行う。
 - ✓ 研究開発でも地元の企業・自治体との連携を強化し、共同研究・受託研究などの規模・件数を拡大する。

よみたしとあつめしふみを・・・

—— 暁烏文庫のこと

総合政策学部教授 永井 博

よみたしとあつめしふみをのちにみる

ひとにのこしてやすくよをさる

これは金沢大学の附属図書館内にある暁烏文庫の蔵書に挟まれていた蔵書票の短歌である。たしかすべて平仮名で書かれていたと思うのでそのように引用したが、漢字交じりで書くと次のようになろう。

読みたしと集めし書を後に来る

人に残して安く世を去る

暁烏文庫は暁烏敏の旧蔵書を所蔵する文庫である。暁烏敏は「あけがらす・はや」と読む。現在の石川県白山市出身の真宗大谷派の僧侶である。私は金沢大学の大学院に入学した直後、大学の附属図書館のガイダンスということで、指導教授の鈴木一雄先生に連れられて同級生と一緒に書庫の中の暁烏文庫に入らせてもらった。手近にあった本を開いてみたら、この短歌を印刷した蔵書票が挟んであったのである。それは、あるいは印刷してあったのではなく、人の手で彫刻刀のような小刀で彫って、スタンプのように捺印したものだったかも知れない。それを読んで、先人の遺産というものは有難いものなんだなど殊勝なことを考えたような覚えがある。

暁烏は僧侶だが、文学にも西洋思想にも造詣が深かったらしい。文庫の薄暗い書棚のなかには武者小路実篤の本がずらりと並んでいたのを覚えている。彼は一八七七年生まれなので、一八八五年生まれの武者小路の八才年上である。武者小路が志賀直哉や有島武郎らとともに

「白樺」を創刊したのは一九一〇年、以後『お目出たき人』（一九二一年）や『友情』（一九一九年）などを書いて、「白樺」だけではなく大正を代表する作家として活躍した。その時、武者小路は二〇台後半、暁烏は三〇台前半だった。書棚に並んだ武者小路の本を見て、「白樺」が青年必読の書だったんだな、そういう時代だったんだなあと思ったのを覚えている。

また、「帝国文学」という雑誌のバックナンバーもたくさん並べられていた。これは当時の東京帝国大学文科大学の関係者が中心になって発行されていた文学雑誌である。芥川龍之介が「羅生門」を発表したのも一九一五年のこの雑誌だった。ガイダンスの時一緒にいた同級生で芥川を研究していた友人が、その「羅生門」の初出の号を見て「末尾の改稿部分があった」と小声で教えてくれた。「羅生門」は、「帝国文学」に掲載されたとき（初出）の本文と、後に単行本『鼻』（一九一八年）に収録されたときの本文に異同がある。最後のところが、初出では「下人は、既に、雨を冒して、京都の町へ強盗を働きに急ぎつゝ、あつた」であり、『鼻』では「下人の行方は、誰も知らない」となった。これが決定稿で、今たとえば高校の教科書に載っている「羅生門」の末尾はこれである。友人が言った「末尾の改稿部分」というのはこれのことなのだ。彼はその最初のかたちを見たのである。そんな些細なことにとどんな意味があるのかと言うなかれ。芥川は、荒廃した羅生門の楼上で死体から髪の毛を抜く猿のような老婆と出会った主人公の下人を、初出では強盗を働かすために洛中を疾走する人物に仕立てたが、三年後の決定稿では夜の闇の中に消し去ってしまったのである。行き所を失って途方に暮れていた下人が、決然と自分の行為の方向を獲得する末尾から、その存在そのものを消去してしまう末尾への改稿。そこには芥川

論の大きな問題が横たわっているのだ。

それはさておいて、改稿される前の本文を当時の資料で実際に読むことができるというのが、どれほど大事なことか分かるだろうか。それは、芥川の同時代の読者のように、彼と同じ空気を吸い、同じ本や雑誌の紙の手触りを感じるといふことであり、そういうことを通して小説を改稿する作家の苦悩を想像してみるといふことなのだ。

暁烏文庫は一九五〇年に暁烏が蔵書を金沢大学に寄贈して設立された文庫である。金沢は戦争で焼けなかったという地元の人から聞かされたが、暁烏の蔵書も戦災を受けなかったのだろう。それで戦後になって、いわば無傷で蔵書が大学の図書館に寄贈されたのだと思う。これは本当に「のちにくるひと」たちにとって幸運なことだった。短歌には「やすくよをさる」と詠まれているが、彼は一九五四年に七七歳で亡くなっている。すでに老境を迎えていた彼にすれば、後世の人に蔵書を託すことができたというのは大きな喜びだっただろう。この歌はその心境を詠んだきれいな歌である。



2022年
「Good Practice 賞」表彰式

全学FDである「教学フォーラム」において2022年度「Good Practice 賞」の表彰式を挙りました。

「Good Practice 賞」とは学生による授業改善アンケート等の結果に基づき、評価の高かった優れた授業や取り組みに対して学長が学長裁量経費により表彰するものです。

前学期は、フェリペフェハリー特任准教授（総合政策学部）が受賞されました。

【授賞理由】授業改善アンケートの「授業・教員について」の設問(①～⑧)において回答の平均値が4.5以上の科目に、担当科目である「基礎英語Ⅰ」と「ポルトガル語Ⅰ」の2科目が該当し、また他の担当科目も高い評価を得たこと。



▲左からフェハリー特任准教授、岩崎学長

後学期は、富田与教授（総合政策学部）が受賞されました。

【授賞理由】授業改善アンケートの「授業・教員について」の設問(①～⑧)において回答の平均値が4.5以上の科目に、担当科目である「グローバルコミュニケーション」・「国際協力論」の2科目が該当し、高い評価を得たこと。



▲左から富田教授、岩崎学長



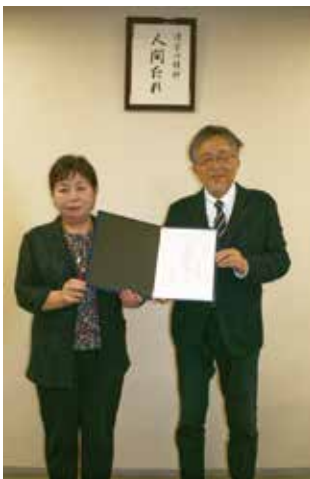
名誉教授称号授与式

四日市大学に長年在籍し、教育・研究などの学術面での業績、また社会や地域への貢献、学部長など学内の要職を務められるなど、本学において顕著な功績を挙げられた教員に対して名誉教授の称号を授与しています。

令和5年度は、元総合政策学部教授・松井真理子先生に名誉教授の称号が授与されました。

松井先生は、鳥根県職員を経て、本学に赴任し、副学長、総合政策学部長、情報センター館長、社会連携センター長等を歴任されました。また、長期にわたり特定非営利活動法人市民社会研究所を主宰され、地域活動にも熱心に取り組まれました。

授与式は、今年度から全学教授会場の場を借りて行うことになり、岩崎学長からは、これまでの本学へのご貢献への感謝と、今後も健康にご留意いただき、様々な面で本学を支えていただきたいの言葉があり、松井先生からは急逝された安達元学部長から声を掛けられた時のこと、また今後も関りは続くのでよろしくお願ひしますとの挨拶がありました。



▲左から松井名誉教授、岩崎学長

2023年
日本留学 AWARDS 上位入賞

9月1日、2023年日本留学 AWARDS の表彰式がオンラインで開催され、本学は西日本地区私立大学文科系部門において上位入賞を果たしました。

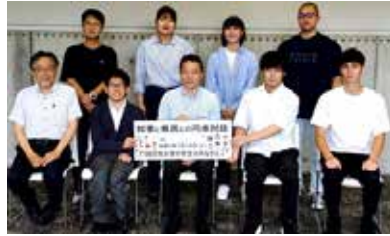
日本留学 AWARDS は、一般財団法人日本語教育振興協会が主催する「日本語学校教育研究大会（専門委員会）」が、多くの日本留学を志す外国人留学生の環境整備に貢献することを目的に2012年に創設した賞です。全国の日本語学校教職員が留学生に勧めたい進学先として、大学文科系・理工系、大学院など部門ごとに東西地域の上位校が選出されます。本学は2013年から9回上位ノミネートされ、2015年・2016年・2017年は3年連続で大賞を受賞している名誉ある賞です。今後も、この名誉ある賞を頂いたことに慢心せず、留学生目線に立った指導、支援を続けていけるよう、教職員一同、努力していきたいと思ひます。



一見勝之・三重県知事との

円卓対話の開催

7月18日に四日市大学において、一見勝之・三重県知事と本学学生との円卓対話が開催されました。円卓対話とは、知事が地域に向き、現場で直接県民から聴くことで、知事との自由闊達な対話の場づくりをめざすことを目的としています。第19回となる今回は、本学学生（参加者参照）との対話となりました。学生には、本学への進学動機から始まり、将来の仕事や住みたい場所の希望、良い点や悪い点など三重県に感じていることなどについて質問があり、学生は各々答えていました。今回のように地方行政のトップの方と話し合える機会はあまり多くありません。学生にとって貴重な機会になったことと思います。



▲ 左端：岩崎学長 前列中央：一見知事

● 円卓対話参加学生 ●

学部	学年	氏名
総合政策	3	桐山 裕汰
総合政策	3	岡村 瑠夏
総合政策	3	石川 楓
環境情報	4	宮城 俊佑
総合政策	2	茂木 ヒデキ
総合政策	3	山中 稜也
環境情報	3	松下 健太郎

社会連携活動

■ 四日市大学公開講座の開催

2023 四日市大学公開講座が、9月16日14時から「じばさん」にて開催されました。

鬼頭浩文教授（副学長・環境情報学部長）が講師を務め、「防災とまちづくり」〜東日本大震災の復興か

ら学ぶ〜」と題し、講演しました。同講演では、東日本大震災のみならず熊本地震・四日市市下野地区浸水等に対して、78回を数えるボランティア派遣の実体験に基づいた多岐にわたる事例が次のとおり報告されました。

- ・ ボランティアの主な作業である被災した民家の床下に溜まったヘドロと重油の混ざった揮発臭のする泥を土嚢に詰めて搬出するのは、相当の重労働である。
- ・ 被災者の生存確認のための戸別訪問の際に三重県から駆け付けたと伝えると、遠方からの来訪をととても喜んでもらえる。
- ・ 豊富な体験から通常2時間を要する850人分のトマト鍋の配布を35分で済ませるノウハウを習得した。
- ・ 4年次の本学学生が、仕事明けにボランティアに駆け付けた消防士の熱い思いに感銘し、猛勉強し消防士試験に合格したという吉報に接した。

来場者からは、「写真が多い説明で、わかりやすかった。」「災害発生時からボランティア活動を行いに行くべきか理解できた。」「ボランティア活動された学生さんたちはその後の人生に大いに役立つと思います。」等の感想が寄せられました。社会連携課スタッフ一同、残暑厳しい折、ご来場くださいました皆様に厚く御礼申し上げます。



▲ 鬼頭教授



▲ 講演風景

■ 『みえアカデミックセミナー2023』始まる

みえアカデミックセミナー2023が、7月15日13時30分から「三重県文化会館 レセプションルーム」にて幕を開けました。

講演に先立ち、岩崎恭典学長・社会連携センター長から、「当イベントは、三重県内の各高等教育機関の教員が全15日程を持ち回りで専門的見地から講演し、生涯学習社会のニーズに応えるもので、この機会を大いに活用していただきたい」と挨拶がありました。

当イベントの今年度第1回目となる今回は、富田与総合政策学部教授が、「ウクライナ・フィルター―情念と情報の国際関係―」と題し、講演しました。富田教授は、独自の視座に立脚し、プーチン大統領の4つの演説を読み解き、わが国では報道されることのないロシア側の見方を解説した上で、わが国で発信される情報には「味方」と「影響拡大」という2種類のフィルターがかかっていることが多いと端的に指摘し、聴衆の関心と共感を得ていました。わが国で発信される情報の多くはウクライナ側からの視点に偏向しがちで、更にエネルギーや食糧の価格高騰には以前から個別の要因があるにもかかわらず、ロシアのウクライナ侵攻が要因であるかのような言説が流布しているとし、それ的確な修正を施していました。

社会連携課スタッフ一同、みえアカデミックセミナー2023の初回が成功裏に終了したことに安堵するとともに、幅広い年齢層からの聴衆は生涯学習時代を実感しました。



▲ 富田教授



▲ 講演風景

令和5年度 四日市大学教育後援会 「保護者懇談会」の開催

令和5年10月1日、都ホテル四日市において岩崎学長をはじめとした教職員及び約40名の保護者に参加して、教育後援会「保護者懇談会」が行われました。岩崎学長の挨拶ではコロナ禍を経た大学の取り組みが紹介され、特に大学、学生、保護者そして地域が一体となつて、学生の成長を応援する普段の姿を取り戻しつつある様子を紹介しました。

また伊藤キャリアサポート課長から「保護者のための就職ガイダンス」と題して四日市大学の現状、学生の就職活動に挑む心構え、人事担当者の目線、保護者の学生とのコミュニケーションの取り方などが話されました。

その後、教職員との個別面談へと移行し、学生の状況等についてゼミ担当教員やキャリアサポートセンター職員等と熱心な質疑応答や意見交換が行われました。

本懇談会は保護者の皆さんと直接出合える場として今後も継続してまいります。



▲ 全体会の様子



個別面談の様子 ▲

令和5年度

四日市大学教育後援会 役員ご紹介

役職名	氏名
会長	徳丸 敏行
副会長	池尾 晃則
書記	西村 一成
会計	諸岡 功一
監査	間瀬 慎一
監査	服部 美帆
幹事	今村 奉史
幹事	西野 友紀
幹事	出口 将人
幹事	名倉 佳孝
幹事	加藤 里枝

情報センター外柵塗装工事の実施

Ⅱ 教育振興未来みはるかす募金事業 Ⅱ

暁学園は、令和3年（2021年）に創立75周年の節目を迎えました。これを記念して、校種ごとに募金をお願いする「教育振興未来みはるかす募金」を創設しました。

本学でも、卒業生をはじめ、多数の皆様からご寄付をいただくことが出来ました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

今回、お寄せいただいた募金により、本学では懸案事項であった情報センター（図書館）の外柵塗装工事を実施しました。

情報センターは、本学の6、7、8号館と共に、7号館スタジオのオープンステージを取り囲むように立っており、本学の西寄りキャンパスの中心的な建物です。しかし、外柵の経年劣化が進んだため、どうしても景観が悪くなっていました。

そこで、今回、他の建物の一部と共に外柵塗装の塗り替えを行うことで、周辺の美観向上に大きく貢献することが出来ました。



特待生認定証授与式と座談会

9月15日に特待生認定証の授与式が行われました。四日市大学特待生制度は、社会に貢献できる人材を育成することを目的に、学業成績が優秀な者に対し奨学金を給付する制度です。本年度は6名の学生が認定されました。

授与式の後、岩崎学長と三田教育・学生支援部長と学生の座談会が実施されました。履修や授業、学内ボランティア、学内施設について意見を聞きました。これらは貴重な意見として今後に生かして、学生の皆さんがよりよい学生生活を送れるよう、取り組んでいきたいと思っております。

2023年度特待生認定者

学部	学年	氏名
総合政策学部	3	石川 楓
	2	栢本 愛子
	3	岡村 瑠夏
環境情報学部	4	西野 純怜
	2	佐藤 純白
	2	黄山 百合



活動報告

「四大祭2023」の開催

2023年10月28日学友会主催「四大祭2023〜Spooky Revival〜」を開催しました。
様々な企画・発表により学生生活の充実を感じさせる一日となりました。



本学講堂でのアーティストライブ



クリエイター部 水中にいるようなVR体験



学友会メンバー



ピアノバトルチャンプ本は
『まじないの文化史 日本の呪術を読み解く』



吹奏楽団 屋外スタジオでの演奏



留学生 出身国の料理の販売



小林ゼミ 四日市とんてき丼の販売



カラオケ大会入賞の皆さん



旅倶楽部 津餃子 & 鶏めしの販売



クリエイター部
大スクリーンを使ってのeスポーツ大会



エコ活部 昆虫標本や本学の自生植物の展示



伊勢型紙愛好会 作品展示・販売



伊勢型紙愛好会 体験会



ボードゲーム部 珍しいカードゲーム
やチェスゲームの体験会



千葉ゼミ 素敵なお景品を用意した射的



軽音楽部 屋外スタジオでの演奏



スタジオ 音響と照明はゼミの学生が担当



イベント企画部 Linkey
キッチンカー2台出店



アーティストライブ
“クジラ夜の街”コンサート



茶道部
特設お茶席でお点前披露



晴天にも恵まれました

2023年度全日本学生テニス選手権大会 (インカレ)の結果

2023年8月14日から20日まで、四日市テニスセンターで開催された「全日本学生テニス選手権大会 男子91回/女子67回」のシングルズに、総合政策学部4年の谷川大雅さんが3年連続で出場ダブルスでは環境情報学部2年の室井卓海さんとペアを組んで初出場を果たしました。以下結果となります。

●男子シングルズ本戦

- 2R 谷川 7-5 6-4 山内 (筑波大学)
- 3R 谷川 2-6 4-6 下村 (慶応義塾大学)

●男子ダブルス予選

- 1R 谷川・室井組 6-2 6-2 林・中野 (東海学園大学)
- 2R 谷川・室井組 3-6 4-6 林・高木 (慶応義塾大学)

テニス部長谷川良監督のコメント

昨年までは、コロナの影響で応援は認められず、地元開催にも関わらず後輩たちにもその雄姿を見せられませんでした。今年からはテニス部一同、並びに多くの先生方や親族が応援に駆けつけてくれました。谷川選手にとっても学生最後の大会で力を出し切ることができました。ダブルスでは後輩の室井選手に勝負強さの経験をしつかりと引き継いでくれたと思います。大学をはじめ皆さんの応援のおかげでこうした結果を残すことができました。本当にありがとうございます。



▲ 左から谷川、室井の両選手

勤怠管理の厳格化

|| 新しい働き方を求めて ||

本学は、7月に四日市労働基準監督署の定期監督を9年ぶりに受け、勤怠管理等について、是正指導を受けました。労働基準法等に則り行わなければならない勤怠管理等が不十分であるとの指摘でした。大学の教職員は、教育職員と事務職員に大きく分けられますが、特に教育職員（教授等の教員）は、特殊な働き方をしていることから、これまで出勤の時間管理を行ってこなかったわけですが、今後はその必要があります。また、事務職員においても、教員に做った形で就業形態が作られていましたので、同様に出勤の時間管理などを求められました。

本学では、これらの指摘を受けて、早速是正に取り組んでいます。

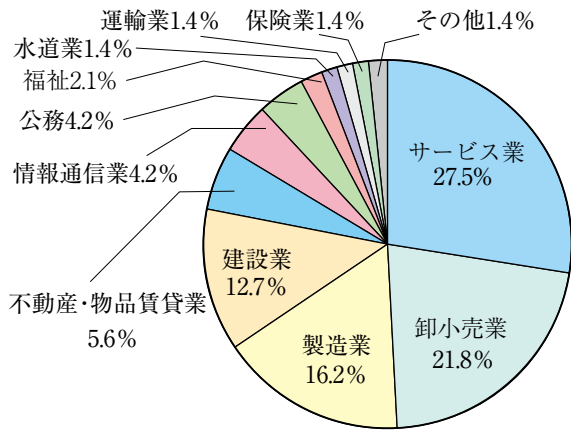
就職活動 (2022年度報告・2023年度状況)

キャリアサポートセンターより

2022年度卒業生 就職内定率 98.6% 実就職率 85.0%

※実就職率：就職者数 / 卒業者数

〔業種別就職状況〕



主な就職先

九鬼産業 / ユニー / ドン・キホーテ / 東産業 / ブロンコピリー / 神戸製鋼所 / 渡辺パイプ / 日立ビルシステムズエンジニアリング / エディオン / スーパーサンシ / トヨタカローラ三重 / 中村製作所 / 太陽建機レンタル / 酒重 / ジャパンマテリアル / 東洋エアゾール / ハマエンジニアリング / 三重総合警備保障 / ネットトヨタ / ヴェル三重 / 東海メンテナンス / 社会福祉法人洗心福祉会 / 日本メンテナンスエンジニアリング / 東邦地水 / 三重県(市町立小中学校職員) / 富山県警察本部 / 東浦町役場

4年生の就職活動状況

コロナショックで大きな打撃を受けた日本経済は徐々に回復。大卒の求人倍率もコロナ前の水準に達し、学生優位の「売り手市場」が戻りました。しかし売り手市場と言われながらも企業は良い人材を選んでいます。学生自治会やスポーツ・ボランティアなどに打ち込んだ強みを持つ学生は、経済情勢や景気の動向に左右されることなく内定を獲得しています。

企業は「どこの大学」ではなくあなたが「大学で何を学んだか」を知りたいのです。

就職活動は終盤を迎えています。まだまだ採用を続けている企業はあります。キャリアサポート課では未内定の学生に対し更に一歩踏み込んだ就職支援を行い、就職希望の学生全員が内定を獲得できるようにサポートを続けます。

デジタルサイネージ2台設置

キャリアサポートセンターでは、学生に役立つ就職情報を発信するため、『大学TV (デジタルサイネージ)』を導入しました。

学生に対して、将来を見据えた幅広い就業観を養い、インターンシップや早期の企業エントリーに繋げる効果を期待し、このたび学生が通年利用する学生食堂とキャリアサポートセンター近くの2箇所に設置しました。

デジタルサイネージは、高さ160センチ、50インチの大画面で、放映されるカラフルな映像はデジタルネイティブな学生にとって、「とても見やすい」「わかりやすい」と好評です。



2024年度四日市大学入学試験情報

Yokkaichi University Entrance Examinations

入学試験日程（総合政策学部・環境情報学部共通）

選抜	入試名称	出願期間	試験日	合格発表日
一般	一般入試A日程	1月 5日(金) ~ 1月31日(水)	2月 3日(土) 2月 4日(日)	2月 9日(金)
	一般入試B日程	2月 9日(金) ~ 2月20日(火)	2月22日(木)	2月27日(火)
	一般入試C日程	2月27日(火) ~ 3月 7日(木)	3月 8日(金)	3月13日(水)
	共通テスト利用入試Ⅰ期	1月 5日(金) ~ 1月31日(水)	-	2月 9日(金)
	共通テスト利用入試Ⅱ期	2月 9日(金) ~ 2月20日(火)	-	2月27日(火)
	共通テスト利用入試Ⅲ期	2月27日(火) ~ 3月 7日(木)	-	3月13日(水)
	共通テスト利用入試Ⅳ期	3月11日(月) ~ 3月18日(月)	-	3月22日(金)
	共通テストプラス	1月 5日(金) ~ 1月31日(水)	-	2月 9日(金)
学校推薦型	クラブ推薦入試C日程	2月 5日(月) ~ 2月13日(火)	2月22日(木)	2月27日(火)

受験生サイト



奨学金制度

充実の入試特待生制度!

対象の入学試験での成績上位者から選抜、授業料（最大全額）を減免します。

対象入試 対象入試：一般入試（A日程・B日程・C日程）、大学入学共通テスト利用入試（Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期・Ⅳ期）、共通テストプラス入試

▶▶▶ 授業料の100%（全額）免除1種、50%減免2種、30%減免3種の入試特待生を選抜。

4年間の
減免額

1種	2,720,000円（初年度の減免額 680,000円）
2種	1,360,000円（初年度の減免額 340,000円）
3種	816,000円（初年度の減免額 204,000円）

入試特待生
採用枠 **40**名
入学者定員の5人に1人

◎四日市大学入学支援同窓生奨学金

四日市大学では、同窓生の入学支援奨学金制度を行っています。

在校生および卒業生の二親等内の親族が本学を受験する場合に、次の特典を受けることができます。

▶▶▶ 入学検定料の1万円補助、入学金の半額補助

※若干名 ※入学金補助は入学後に、入学検定料一部補助は受験後の手続きにより返金いたします。
※本学における、他の諸納付金減免または奨学金給付を併給することはできません。ただし、貸付型奨学金はこの限りではありません。

●お問い合わせ先 [入試広報室] TEL: 059-365-6711 E-mail: nyushi@yokkaichi-u.ac.jp

名誉教授称号授与

松井 真理子 令和5年7月5日付

人事異動

(令和4・5年度)

〔退職〕

総合政策学部特任教授	松井 真理子	令和5年3月31日付
環境情報学部特任教授	武藤 和成	令和5年3月31日付
環境情報学部特任教授	李 修二	令和5年3月31日付
環境情報学部特任教授	田中 雅章	令和5年3月31日付
環境情報学部特任教授	関根 辰夫	令和5年3月31日付
環境情報学部特任教授	田邊 和豊	令和5年3月31日付
事務局庶務課		

〔新規採用〕

総合政策学部特任准教授	浅井 雅	令和5年4月1日付
総合政策学部特任准教授	吉川 和扶	令和5年4月1日付
総合政策学部特任准教授	倉田 英司	令和5年4月1日付
環境情報学部特任准教授	足立 明信	令和5年4月1日付
環境情報学部特任准教授	青木 陽子	令和5年4月1日付
環境情報学部特任助教	柳澤 翔士	令和5年4月1日付
事務局社会連携課	栗田 優	令和5年4月1日付
事務局情報処理課	井後 和希	令和5年4月1日付
教育・学生支援部教学課	中田 千陽美	令和5年4月1日付
〔昇任〕		
総合政策学部教授	岡 良浩	令和5年4月1日付
総合政策学部教授	高田 晴美	令和5年4月1日付
環境情報学部教授	片山 清和	令和5年4月1日付
環境情報学部教授	牧田 直子	令和5年4月1日付
環境情報学部教授	廣住 豊一	令和5年4月1日付
環境情報学部教授	大八木 麻希	令和5年4月1日付
教育・学生支援部教学課長補佐	浅野 路奈	令和5年4月1日付
事務局庶務課主任	小川 真理	令和5年4月1日付
入試広報室主任	矢橋 良久	令和5年4月1日付

永年勤続表彰

本学における令和5年度永年勤続表彰対象者は、次のとおりです。

〔30年勤続表彰〕

事務局庶務課長
事務局庶務課主任

入試広報室

〔10年勤続表彰〕
総合政策学部教授

大川 正明
小川 真理
齊木 初美
三田 泰雅